🔟 アプリケーション自動化総合コミュニティフォーラム (Japan)





ZXPSignCmdによる自己認証ファイルの生成

Posted by 10 A in アプリケーション自動化総合コミュニティフォーラム (Japan) on Feb 5, 2018 1:40:33 AM

ZXPSignCmdにはzxpファイルをパッケージ処理する他に幾つかの機能が盛り込まれています。 1 つがzxpパッケージのベリファイでもう一つの機能が今回説明する自己認証ファイルの生成です。

AdobeAddOns等でZXPファイルを配布する場合等、エクステンションパッケージを配布する場合はサイン処理が必要です。一般的な認証機関の発行するサインファイルを利用する場合、年間数万円のコストが必要となります。しかし、無償でのエクステンション配布を考える場合等は、このコスト負担は非常に重いものとなりかねません。そこで、ZXPパッケージは自己認証とタイムスタンプをあわせて利用する事で認証機関発行のサインに代える仕組みがあります。この時に利用可能な自己認証ファイルをZXPSignCmdを利用して作ることが出来ます。

例

- 01. ./ZXPSignCmd -selfSignedCert JP TOKYO CCLab Ten_A password testCert.p12
- 01. ./ZXPSignCmd -selfSignedCert JP TOKYO CCLab Ten_A password testCert.p12

コマンドラインにてZXPSignCmdを置いたディレクトリに入った状態で上記のコマンドを実行します。

ZXPSignCmdに続くスイッチ「-selfSignedCert」が自己認証ファイル生成のスイッチで、引数が順番にカントリーコード、州とか県とかの地域、組織、名前、パスワード、自己認証ファイル名となります。ファイルはp12なので拡張子をp12として下さい。この例はMacintoshですが、Windowsの場合はZXPSignCmdをZXPSignCmd.e xeと読み換えて実行して下さい。

上の見本が「password」ってなっていますけど、ここは必ず自分で替えた上で忘れないようにして下さい。ZXPファイルをパッケージ処理する場合に必ず必要になります。

662 Views Tags : cep